



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995年 10月 18日

2012～13年度テーマ

親睦と奉仕そして前進

編集・発行：情報委員会

ークラブライフを通じて、青春をたぎらせようー

第 18 回臨時総会

日 時：平成 25 年 5 月 9 日(木) 12:00～12:20

場 所：八王子エルシイ

出席者：66 名 欠席者 7 名 出席率 90.4%

(会員総数 73 名休会 0 名)

1. 開会 飯田例会委員長の司会で開会
2. ハッピーコインの紹介 (後掲)
3. 吉田会長挨拶

本日の臨時総会は、次年度の役員を決定し、今年度に引き続き活動を継続する体制を審議する場です。の臨時総会の後、例会、生涯学習サロン閉講式、特別講話、さよならパーティと続きます。



長丁場の催しとなりますので皆様方には気を楽にしてお付き合いください。

4. 議長選出

恒例により会長が議長を務めることとなり、議長が会員総数 73 名の内、出席会員は 66 名であり、本総会が有効に成立したことを宣言した。

書記 1 名、議事録署名人 2 名選出

書記池田会員、議事録署名人戸田会員、広瀬会員が指名された。

5. 議事

議案 次年度役員選出の件

次年度役員案が提出され、挙手多数で原案通り可決された。

次期役員

会長	荒 正勝
副会長	土井 俊玄
幹事	馬場 征彦
副幹事	竹内 賢治

例会委員長	戸田 弘文
情報委員長	田中 信昭
会員委員長	荻島 靖久
研修委員長	河合 和郎
地域奉仕委員長	内山 雅之
交流担当	浅川 文夫
会計監査	山崎 修司
会計監査	市川 昌平

次期副委員長

例会副委員長	宮城 康子、 岩島 寛
情報副委員長	有泉 裕子、 寺田 昌章
会員副委員長	池田 ときえ、橋本 晴重郎
研修副委員長	下田 泰造、 土井 俊雄
地域奉仕副委員長	川村 真、 飯田 富美子

6. 閉会 荒副会長が閉会の辞を述べる

第 211 回例会



飯田例会委員長の司会で開催

12:20～13:40

出席者：66 名 欠席者 7 名 出席率 90.4%。

第 212 回の例会は PM4 時から臨時総会と例会を開催します。6 月からはクールビズです。

1. 挨拶 吉田会長

先程の臨時総会で次期役員が選任されました。次期役員の皆様には、クラブの一層の発展を目指して活動して下さることを期待しております。

2 月 26 日から始まった生涯学習サロンも本日閉講式を迎えることになりました。一般市民の 100 名を超える方々の参加を得、担当の方々、特に地域奉仕委員会の方々の努力のお陰もあって、クラブとしての市民奉仕活動の実を上げることが出来たと思っております。この例会後、学習サ

ロン閉講式と特別講話、サヨナラパーティと催しが続きます。有終の美を飾るべく、皆様方のご協力をお願いいたします。

話は変わりますが、5月5日の子供の日に長島茂雄、松井秀喜のお二人が国民栄誉賞を受賞されました。私はこの二人のファンで、10年ほど前、松井選手の写真を入手しました。これは読売新聞社のサービスで、裏に自分の誕生日の新聞を貼り付けてもらいました。

私の誕生日は昭和12年9月6日です。当日の新聞は、中国での戦争記事一色でした。昭和12年は日中戦争が始まった年だと知ってはいましたが、自分が生まれた日の新聞記事が戦争一色であったことに、ドキッとしたものでした。ここにおられる多くの皆様の誕生日の新聞記事も恐らく同様と想います。現在、これを下敷きとして用いており、この記事を読むたび戦争はするものではないとの考えを新たにしています。松井秀喜選手の国民栄誉賞受賞からこんなことに想いを馳せました。

2. パースデーカード贈呈



阿部幸子、有泉裕子、川村真、永井昌平、橋本鋼二の5名の会員に、池田会員お手製パースデーカードが会長より手渡された。

3. 幹事報告 塩澤幹事



- 1) 来年度への申し送りの件
- 2) 5月の野外サロン無事終了した
- 3) 日野、多摩プロバスクラブとの3者交流会

に出席した。

- 4) 5月2日の理事会は閉講式、パーティー中心に話し合った

4. 委員会報告 飯田委員長

- 1) 例会委員会 飯田委員長

本日の出席率の報告（上述）。

- 2) 情報副委員会 寺田委員長

プロバスだよりの投稿は、6月、7月分の在庫はあるが、投稿を依頼された方は早めに提出願います。

- 3) 会員委員会 橋本晴重郎委員長

会員名簿を新しく作成する。TEL・FAX・メールアドレス等確認願います。変更のある方は、6月の例会までに申し出ること。

- 4) 地域奉仕委員会 橋本鋼二委員長

学習サロン最後の行事である閉講式で新市長も来られる。式後のパーティーでの食事はテーブルごとにした。アトラクションには、フラダンス、シニアダンス等を準備している。一般会員が孤立しないように気をくばり、皆さんが楽しめるよう協力をお願いします。

5. 交流担当 浅川委員長

クラブの交流を密にするため連絡会議を多摩プロバスクラブで持った。卓話、例会に参加する等、また同好会の交流も盛んにする。来年の担当は八王子プロバスクラブになる。

6. 川村副幹事

5月19日の健康フェスタに例年のように受付をする。8時八王子のグラウンドに集合。

7. 同好会活動報告

- 1) ゴルフ同好会 米林会員

5月23日 相武カントリーで日野、多摩と合同コンペがある。

- 2) 歴史の会 土井会員

6月26日 AM8時八王子南口集合。会費7千円（二カ所の入場料含む）。予定人員25名。「初夏の風に吹かれながら青梅・奥多摩の史跡、文学散歩」をテーマに開催する。

8. 宇宙の学校報告 下山会員

平成24年度八王子「宇宙の学校」実施レポートをお届けしました。巻頭に的川先生とスリーポンド落合社長の対談が載っています。「宇宙の学

校」を巡って、子供や若い社員の教育、宇宙関連技術やビジネスの展望など、熱く語られています。このレポートは、「宇宙学校」実施スタッフの中の情報担当の馬場会員を中心に、まとめて下さいました。是非ご覧下さい。

さていよいよ平成 25 年度の計画が準備でき来週 14 日（火）の実行委員会を開催し実施に入る事になりました。今年の重要な点を報告します。

第 1 は夏休み前の 7 月に開校します。夏休み前の教材提供で家庭学習を夏休みに行く余裕があるように配慮しました。9、10、11 月でスクーリングを行い、12 月 1 月の寒い時期を避けます。このスクーリングは教育センターの体育館を利用する関係上、日曜日では無く土曜日になります。募集は 6 月に始まり、締め切りは 6 月 20 日過ぎになる予定です。プロバスクラブの「宇宙の学校」スタッフの方々を昨年同様の人数でお願いしますが、よろしくご協力ください。

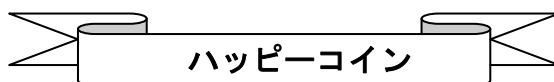
第 2 は桑志高校会場の開催はありません。八王子都立北高校と松枝小学校、陶鎔小学校との地域学校間連携による「宇宙の学校」を開催します。つまり北高校会場が発足します。もちろん高校生が中心で、生物化学クラブの生徒とその指導の先生が実際にスタッフの核となります。

第 3 にもう 1 点プロバスクラブ「宇宙の学校」支援の会を通して、今年も「宇宙の学校」への金銭面でのご支援をお願いします。昨年以上のご協力を是非お願いします。この皆様の浄財によって、子供達の心に火を灯し、その顔が輝き、そしてお父さんやお母さん変わります。是非ご協力ください。集金は追ってご連絡します。

八王子「宇宙の学校」は 3 年目ですが、日本全国の「子供・宇宙・未来の会」KU-MA「宇宙の学校」は今年 5 年目です。50 校を超える開催が予定されています。5 周年の記念事業も行われます。追ってご案内いたしますが、国分寺会場、及び相模原会場です。

いよいよ八王子「宇宙の学校」も 3 年目、八王子で定着発展していくための大きなハードルを飛び越えるための最後の年になる印象を持っています。皆様もぜひ改めて八王子「宇宙の学校」の成功にお力を貸して頂きたいと存じます。よろ

しくお願いいたします。



*半年ぶりの出席です。ご心配と励ましの言葉を頂き心から嬉しく感謝致します。当面は十分な奉仕活動も出来ず、ただ出席するのみと思いますが、ご容赦下さい。今後ともよろしくお願い致します。

澤渡 進

*ハッピーだかアンハッピーだか解りませんが、ハッピーを目指して頑張ります。 荒 正勝

*明日、年女の誕生日を迎えます。今日皆様にお祝い頂き嬉しく思います。これからも元気に過ごして行かなければと思います。 有泉 裕子

*阪神、巨人を 3 タテ。連休明けの 3 連戦で。

今年は、もしかしたらやるかも！宮崎 浩平

*本日サロン最終日を迎えホットしています。

野口 浩平

*プロバスサロン担当の講話、無事終了。皆様方のおかげと深謝申し上げます。 近藤 泰雲

*15 日喜寿を迎えます。平均余命は、9.77 年。毎朝のウォーキングで頑張らなくちゃ。

川村 真

*定期検診の結果、お酒の飲み過ぎ以外、異常なし。後期高齢者の仲間入りが出来そうです。

永井 昌平

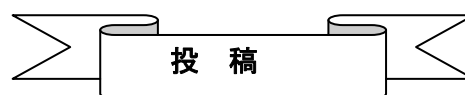
*次の八王子宇宙の学校のスケジュールが決まり、楽しく充実した学校になるよう願っています。

高取 和郎

*今年度「宇宙の学校」計画大綱が決まり実行委員会開催の運びとなりました。 下山 邦夫

*79 歳になります。サロン最終日が盛会で無事に閉会となるのを祈念して。 橋本 鋼二

*長嶋茂雄、松井秀喜。お二方の国民栄誉賞受賞、よかった。これが本当のハッピー。吉田 信夫



年齢をとるといふこと 石田 雅己



WHO（世界保健機関）は健康をこう定義している。「健康とは単に病気がないということではなく、心理的にも肉体的にも Well-Being な状態にあること」。

Well-Being な状態とは、“良い生き方” “良く生きること” と訳すのが最も適当とされている。わたしは本来産婦人科医であるが、55歳のとき脳梗塞を発症、半身不随と発語障害で入院しベッド上の患者としての心理を実感、更に保健所の医師として地域と共にある医療（公衆衛生）を経験、そして定年後、老人保健施設で働く機会をいただき、さまざまの人間像に接し、高齢者に対しては、生活史を含めて、全人的な理解が必要な事を痛感した。

当時の入所者は殆どが大正生まれであり、戦後の日本を支えて来られた方たちであるが、男と女の生き方には大きな差があった時代でもある。男はある程度生きたいように生き、物も言えた時代であったが、女はそうではなかった。嫁という名の下に朝が一番早く起き、一日の全ての家事を切り盛りし、夫はもちろん、舅、姑に仕え、子どもたちの世話もその肩に掛っており、それをこなす事が女性の美德とされていた。「嫁の一番の安らぎは、朝、暗いうちに起きて、手洗いで束の間のまどろみをむさぼる事であった。（樋口恵子）」

私の尊敬する、故、奈良林祥先生は「性を含めて人間という」「性は人格の重要な部分であり、その理解無くして人間の理解はありえない」といつも言っておられたが、平成の今もなお男性主導型の生活がいたるところに存在している。しかし昨今、女性が積極的に性を語る著作が多く見られ、大手女性誌も特集に取り上げ、アンケート調査などで女性の生の声を論評するようになった。その中には女性としてのアイデンティティの確認、生きることの証としての性を追及する姿勢が見られ、たくましさ、したたかさを感じさせる。私が所属している日本性科学会セクシュアリティ研究会でも、5年毎に単身者、有配偶者の調査を行っているが、年を追うごとに、家庭での女性の発言が、重く大きくなっている。「長い間、女は沈黙を強いられてきた。語ろうとすれば、それは、

はしたない事と見なされ、禁止と抑圧が働いた。語り始めれば、性を語る言葉はすでに男仕立ての論理に汚染されていた。（上野千鶴子）」 男性によって作られてきた女性像は疑いも無く女性たちの手で解体されつつある。多くの場合、男と女の関係性の中で女性が何を望み、何を不満と感じているかを、男性は積極的に知ろうとしない。したがって生活の中での女性の充足感が、心のコミュニケーションの土台に立って深められることに思い至らない。

奈良林先生から戴いた本には「何よりも、愛」と必ず自署して下さった。簡単に使われる言葉であるが、これほど大切に、難しい事はない。

私もいつの間にか81歳、年を重ねてみて初めて気付く実感としての心身の変化に、これまでの人生を反省し、「今」を大切に、いかに良く生きるか、これからの、Well-Being な老後に思いをいたす毎日である。最後に、私の好きな万葉集の中の一首と、若い時熱中した、ヘルマン・ヘッセの言葉をご紹介します長すぎた拙文を終わりたい。

* 難波人の葦火焚く屋の煤してあれど 己が妻こそ常めずらしき（愛ずらしき）

万葉集 卷 十一 の 二六五一

（ 家の中は葦を焚いて煤けており、妻もまた同じ様ではあるが、そのような妻にこそ、一筋に心惹かれるのです ）

* 年をとるということは、若いということと同じに、神聖にして美しい使命である

ヘルマン・ヘッセ

思いで

山口 三郎



長かったサラリーマン生活も2009年7月末をもって無事に終えることが出来ました。40年間の宮仕え生活の中で、なかんづく開発途上国での14年間は、辛かったり、腹立たしかったり、また先方政府との交渉がうまくいかず、どうにもならない焦燥感に陥った事等、数多くありましたが今思い起こせばそのいずれもが懐かしい思い出ばかりです。

28歳から南米のパリと呼ばれるアルゼンチン、ブエノスアイレスに家族共々赴任し2年6ヶ月が経過した時、私は人事命令により南米での最貧国とされるボリビアに移動することになりました。

(同僚達からは天国から地獄への異動とよく言われたものです) しかも首都のラパスではなく、日本人移住者がたくさん居住する高温多湿な亜熱帯気候でもあるサンタクルス市近郊オキナワ移住地(オキナワと云う名称はボリビアの地図で正式名称)でした。今でこそ目を見張る発展ぶりで大都会になっていますが、当時は電気もなく(夜間、時間を区切った自家発電のみ)、水道も地下水で煮沸させないと飲めない大変な生活を余儀なくされました。勿論電気がないため、ガス冷蔵庫や、毎日薪を燃料にした五右衛門風呂と云った具合でした。

ここで私は移住地の安定、移住者の生活向上のための業務に従事しました。1年6ヶ月の任期を経て帰国することになりましたが、我が国の第2ケネディラウンド(KR)無償援助により電気を引くことが出来たことが最大の喜びです。(第2KR食糧増産援助の意味は、日本政府が農機具や肥料、農薬を無償供与し、当該国はこれらを廉価で販売する。それら売却代金を基金化し農業開発等に費やすことを目的とする。因みに第1KR無償は食糧援助そのものです)。電柱が立ち並び電線が張られて間もなくと云うところで帰国になりましたが、その後の移住地を含むこの地域の目覚ましい発展を見る時、いかに大切なインフラ整備であったかは申すまでもありません。

今でもこの無償資金協力が日本、ボリビアの双方にとって、いかに有効に又、友好に働いたかを誇りに思うばかりです。こうした最初の海外赴任地でありましたが、私にとって開発途上国における国際協力・技術協力業務の原点になったような気がします。



車は必要か

高橋敏夫

〈自動車の誕生〉

自動車の定義は「何らかの動力により自力で走行する

車」とするのが一般的なようです。幌馬(牛)車は自動車かはさておき、自動車の最初は、1700年代のイギリスの産業革命に必要な「石炭」と云う新たな資源が登場し、蒸気機関が工場の産業機械の動力として活用されていたのを、馬が動力源だったころ、この蒸気機関を新たな原動力としたのが蒸気自動車の始まりだった。ただこの蒸気自動車は環境汚染や騒音などから長続きはしなかった。やがてガソリンを燃料とした現代の自動車が生じたのは1800年代後半になる。原油の枯渇や高騰などで、ガソリンの内燃機関エンジンから、今はハイブリッド車や電気自動車などが主流になりつつある。

〈自動車の利便性〉

車は私たちの生活を豊かに便利に快適にしてきた。トラックを利用した新鮮な野菜や果物などの運搬、自動車(マイカーや観光バス)による行楽地へのドライブなど、気軽に名勝地や雄大な大自然の鑑賞などを行ってきた。また、郊外型スーパーなどへ生活必需品の買い物にも自動車は不可欠になっており、高齢などからも病院などへの通院には自動車は無くてはならないものとなっている。

〈自動車の登録台数〉

日本で登録されている自動車台数は約7987万台(人口100人当たり全国平均で54.2台)である。そのうち東北の4県(青森、岩手、宮城、福島)の自動車登録台数は、約524万台(人口100人当たり61.6台)で、東京都30.9台の約2倍の保有台数となっている。

〈自動車の被災〉

東日本大震災の地震や津波により被災した自動車は、東北4県で40万台以上と云われているが、更に事業用の車両を加えるとさらに膨大な車両が被災している。

〈自動車の必要性〉

東北4県の1所帯当たりの車の保有台数は3~4台であった。日常当たり前のように使用していた車が使用不能となった時、どうなるのか、通勤や買い物、通院などに公共交通機関が利用できない過疎地などで深刻な問題となっている。特に、被災した4県では公共交通機関の整備はいまだ

不十分であることから、どうしても自動車の利便性を求めているのが実情となっている。だが都市部における自動車の役割は見直されつつある。

<自動車による被災地支援>

被災地の復興には、自動車の利便性を再考し産業を支えるという役割を復活させなければならない。

そこで震災後の平成23年9月にクラシックパレード実行委員会内に「被災地に車を届ける会」を八王子の整備業者4社と、自動車整備学校など3校と、クラシックカーパレード実行委員会の有志などで（八王子市も協力）組織を作り、被災地である宮城県多賀城市（震災で出動の時に津波の被害により救援活動が出来なくなった陸上自衛隊多賀城駐屯地のある自治体）を車の届け先とし、多賀城市の現地NPOの仲介で、自動車を必要とされている被災者に、特に就労支援に役立つ車を中心にして、これまで無償で32台届けている。車を必要とされている方がいる限り、今後も被災地に車を届ける活動を続けていきたい。

囲碁同好会便り 下山 邦夫

囲碁同好会では5月3日囲碁同好会の春季大会を、台町市民センターで行いました。

今年は、近隣クラブとの交流と言う事で、東京多摩プロバスクラブの方3名が参加して14名と言う大勢となり盛りあがりました。勝ち抜き戦5回で、優勝は多摩プロバスクラブの堀内7段、5戦全勝完全優勝、準優勝は八王子プロバスクラブの馬場会員4勝1敗でした。秋には一泊で総当たりの大会をやっています。

囲碁好きの方、覚えたい方、ますます面白くなった囲碁同好会へ顔を出しませんか、見学だけでも結構です、気軽にご参加を。毎月第1、第3金曜日に台町市民センターで午後やっています。



俳句同好会便り

河合 和郎

私の一句～5月の句会から

新緑の五月。誕生カードでお世話になっている池田ときえさんが参加。早速大物振りを発揮。兼題は「筍・竹の子」

朝掘りの筍抱いてお隣さん 田中 信昭

さりげない詠み方がよい。佳句。ご近所の円満なお付き合いが偲ばれて微笑ましい。

春霞鬼の櫛さす妙義山 飯田富美子

野外サロンで訪れた妙義山を詠んだ秀句。奇岩の並ぶ山容を「鬼の櫛さす」は絶妙な表現。

ボールもて競り合ふ子等に初夏の風 東山 榮

ボール遊びに打ち興じる子供たちの姿がよく描けた。「初夏の風」の季語が爽やか。

薫風の香り運びし花畑 阿部 治子

薫風は若葉や花の香を運んでくる清々しい風。身も心も爽やかな作者の姿が見える。

若者よかくあれかしと新樹燃ゆ 馬場 征彦

四月は巢立ちの季節。実社会の新天地へ旅立つ若者たちへの応援歌。草食系よ頑張れ。

菖蒲湯に老いたる身体沈めたり 渋谷 文雄

様々な感慨が浮ぶ一句。あれこれと思いを巡らせながら湯に浸る。名句誕生の一瞬。

並木道人も軽やか花水木 石田 文彦

五月の生き生きとした街の様子をさらりと詠んで軽妙。足取りも軽い作者の姿が浮かぶ。

六日町十日町過ぎ雪果てる 池田ときえ

大型新人登場。句会初参加で最高点句。地名を追って季節感を表す手法は斬新。期待大。

遅かりし旬の筍猪に喰はれ 河合 和郎

最近、猪が農作物を荒らしている。収穫は猪との競争。一步遅れたのがこの句である。

編集後記

パソコンは覧のみでしたので、委員長の手助けでどうにか編集出来ました。 山崎